

総括

■ 機能種別

主たる機能種別「一般病院 2」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および 1 月 22 日～1 月 23 日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

機能種別	一般病院 2	認定
------	--------	----

■ 改善要望事項

- ・機能種別 一般病院 2
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

地方独立行政法人神戸市民病院機構 4 病院の 1 つとして、神戸市医療圏西部の長田区に立地する地域医療支援病院であり、高齢者医療の充実とともに、24 時間体制の救急医療を兵庫県広域災害・救急医療情報システムにも参加して提供している。また、電子カルテも本稼働し、情報セキュリティの強化を図りながら基幹病院との相互閲覧の運用を開始し、千年カルテプロジェクトへも参加している。さらに、地域包括ケアシステムの推進に向け、要となる「地域医療在宅支援室」を設置し、地域ニーズを組織的に把握しながら、地域医療機関との相互訪問やオープンカンファレンス、研修会・交流会の開催等により、顔の見える地域連携を推進している。住民の生活圏を考慮した広域連携などにも積極的かつ継続的に取り組み、地域包括ケア病棟を開設するとともに、地域に必要な政策的医療も担当している。

今回の病院機能評価の受審にあたっては、病院管理者・幹部の強いリーダーシップのもと多くの課題への積極的な取り組みが随所に認められた。今回の受審が病院機能の更なる向上への一助となることを期待するとともに、地域の医療機関を支援する病院として今後の活躍を祈念する。

2. 理念達成に向けた組織運営

理念・基本方針は病院の姿勢を反映して明文化され、院内掲示、ホームページ、入院案内等で周知に努めている。病院幹部は病院の将来像や課題をイントラネットや会議体等、多方面から職員に明示し、様々な取り組みや活動を捉えて表彰や達成度評価などにより就業意欲の向上に努めている。情報管理については、真正性、保存性が確保され、安全性や効率性等の観点から将来に向けて計画的な対応が検討されている。文書は作成・改訂の際に、組織的に検討し承認を得て周知されている。

人材確保に向けては、病院の役割・機能に見合った人材確保に向け取り組まれており今後の成果を期待したい。人事・労務管理、安全衛生管理については、働き方改革や健康増進などに向けた時代に相応した取り組みが期待される。魅力ある職場作りに向け、意向調査や面談が活用され、院内保育所の再開や時間外労働削減などが検討されている。教育・研修については、参加促進に向けた複数回開催やeラーニングによる補完、さらには習得状況も確認されている。職員の能力評価は、機構本部で統一された人事評価制度に基づき実施され、面談にてフィードバックされている。資格取得には、資格取得支援制度に基づき参加費用に対する便宜も図られている。

3. 患者中心の医療

患者の権利は、院内掲示、ホームページ、病院概要、入院案内、職員用冊子等に明示され、患者・家族および職員に周知されている。患者と診療情報を共有すべく、糖尿病教室をはじめとした多様な健康教室の開催や医療に関する資料提供などに積極的に取り組まれている。患者支援に向け、入院から退院まで一括して支援する地域医療在宅支援室が機能し、切れ目のないワンストップサービスの提供に努めている。倫理的課題の方針は明確であり、倫理委員会も機能している。倫理研修も開催されており、具体的な事例に対する検討結果の共有の機会としても活用されるようなお良い。

患者・面会者の利便性として、翻訳・通訳サービスの利用や端末を用いた通訳システムも導入し円滑な受診に繋げている。高齢者・障害者への対応として、バリアフリー化を図り、必要な介助も提供し、病院エントランスから総合案内までの視覚障害者誘導用ブロックの敷設や耳マーク表示など配慮されている。診療・ケアに関する必要なスペースは確保されている。敷地内禁煙が推進され、患者・来院者および職員への継続した啓発活動が実施され成果を得ている。禁煙外来での禁煙成功率も把握し、その後のフォローも実施している。

4. 医療の質

患者・家族の意見や要望、苦情は意見箱をはじめ患者満足度調査、相談窓口、ボランティア、外来担当など多様なチャンネルから収集している。診療の質向上に向け、診療科ごとの定期的な症例検討会に加え、多職種での合同症例検討会、内科外科合同症例検討会、病理学的検討会やCPCなど、多彩な検討会が活発に行われている。業務改善に向け、改善活動チームが主導する定期発表会が病院全体として支援されている。新たな治療方法や技術の導入・臨床研究・薬剤の適応外使用などを行う際には、倫理委員会で審査され、導入前研修を実施するなど体制は整備されている。

病棟・外来における診療・ケアの責任体制は明確である。診療記録の質的点検には、医療情報委員会が効果的に機能している。2週間以内の退院時サマリー作成率も高く、今後も継続した取り組みを期待したい。チーム医療推進部が設置され、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士などの多職種により構成された、ICT・呼吸ケ

ア・リエゾン・緩和ケアなど 13 のチームが介入し、入院時早期よりチームアプローチが積極的に行われている。また、回診・多職種合同カンファレンスも定期的に行われており適切である。

5. 医療安全

医療安全管理部門には院長直轄に医療安全管理室を設置し院長補佐を任命している。医療安全管理者として専従の看護師長を配置し、他職種と連携した組織体制が確立している。安全確保に向け、内部情報や外部情報を収集する仕組みが構築されている。院内パトロールを実施し、安全対策の実施状況を確認するなど評価できる。

誤認防止に向け、手順に沿って実施し、安全対策機能付きの医療材料を採用するとともに、タイムアウトを効果的に活用している。情報伝達については、電子カルテシステム上で、指示受けから実施および確認に至るまで手順は明確である。薬剤の安全な使用に向け、処方時の禁忌や投与時の手順等はシステム管理され、病棟担当薬剤師の関与も得られている。副作用報告は適宜実施し、レジメン登録・管理も最新の状態で維持されている。転倒・転落のリスク評価を患者・家族と共有し、防止対策や発生時の対応手順も整備している。医療機器の安全使用に向け、点検・管理を臨床工学技士と分担して実施し、必要な教育・研修も臨床工学技士や多職種チームにより実施されている。患者急変時の対応手順は整備され、救急カートの配置薬は院内統一し、看護師による毎日の点検のほか、薬剤師が連携して有効期限や品質等の確認も行っている。全職員対象の BLS 訓練は計画的に実施されている。

6. 医療関連感染制御

医療関連感染制御に向け、院長を長とする感染対策委員会、専従の ICN を配置した感染対策室とこれに属する ICT、AST があり、それぞれ権限を付与され感染制御に関わっている。院内の感染関連情報は、臨床検査技術部や病棟等からの報告とともに、頻回の ICT および ICN などのラウンドで把握し分析している。AST も頻回にラウンドし抗生物質の使用状況を確認し指導している。また、アンチバイオグラムが定期的に作成され院内に周知されている。

医療関連感染を制御するため、改善目標を設定し達成できるよう支援している。感染性廃棄物の処理も手順に沿って実施されている。抗菌薬の採用・削除は、感染情報やアンチバイオグラム等をもとに薬事委員会で検討し決定されている。AST のラウンドを通じ、不適切な使用については主治医に指導し勧告するとともに、相談にも応じている。周術期の抗菌薬の術前投与、術後の投与状況も適切である。

7. 地域への情報発信と連携

病院の診療機能や医療サービス等の広報に向け、年報・ホームページ・広報誌を活用している。ホームページは、ガイドラインに沿ってウェブアクセシビリティの実現内容を確認しながら向上に努めている。個人情報保護方針、医療安全の取り組みなど、病院の社会的責任を果たす情報も公開している。地域の医療機能・医療ニ

ーズの把握に向けては、地域医療在宅支援室の機能を充実させ、地域医療機関との相互訪問やオープンカンファレンス等を積極的に開催している。地域包括ケアシステムに主導的に関わり、電子カルテ情報の共有化検討や地域医療従事者支援等を通じ、紹介や逆紹介の実績向上に貢献している。地域住民のさらなる健康増進に向け、地域医療在宅支援室が地域医療推進業務として、講習会や公開講座、禁煙・糖尿病教室、オープンカンファレンスを企画している。また、地域の医療関連施設等に対しても、院内外の看護師や介護職員等の研修計画、訪問看護師の研修受け入れ、地域医療者との情報交換会等を計画的に実施している。神戸糖尿病地域連携パスの基幹病院として機能し、認知症連携パスの定着に向け認知症対応能力研修も実施している。院内の認定看護師や専門看護師による臨床実践研修も計画するなど、地域に向けて医療に関する教育、啓発活動は積極的に行われている。

8. チーム医療による診療・ケアの実践

来院患者の円滑な診療に向け、各種の窓口を分かりやすく案内し、外国人への対応も含めきめ細かい配慮がなされている。診断的検査とそれに基づく入院決定は、主治医が上級医や他科の意見も求めながら、患者の希望にも配慮して実施している。診療計画はクリニカルパスも利用して作成されている。患者・家族からの医療相談に対し、患者相談窓口で多職種が連携し対応している。円滑な入院に向け、多職種が専門性を発揮し評価に基づき患者・家族の協力も得ている。

医師は毎日回診を行い、病状を把握しカンファレンスや電子カルテを通じ情報を共有している。看護師は、患者の基本情報や入院時のリスク評価より、身体的・社会的・心理的ニーズを把握し、立案した看護計画に沿った援助に努めている。各病棟には薬剤師を配置し、薬剤の安全使用に貢献している。輸血は、適正使用指針を遵守し、払い出しから実施まで手順を遵守し記録が行われている。安全な手術に向け、手術の適応や術式、麻酔の検討は診療科の症例検討会を中心に検討し、術前・術後訪問等を通じリスク管理に万全を期している。重症度に応じて多職種によるチーム医療が実施されている。褥瘡対策、栄養管理、症状緩和では、標準化された方法で多角的に評価し、専門的な対応が多職種や医療チームにより実施されている。

急性期のリハビリテーションについては、患者の希望に配慮しながら効果を高めるべく、計画も見直している。退院支援および継続した診療・ケアに向け、地域医療在宅支援室が効果的に機能し、入院早期より患者・家族の意向を確認し、円滑に在宅療養に移行できるよう支援している。ターミナルステージにおいては、必要時には緩和ケアチームも介入し多職種で終末期ケアを行っている。

9. 良質な医療を構成する機能

薬剤部門においては、必要な設備を整備し、電子カルテ機能も活用した安全・確実な調剤体制が構築されている。臨床検査についてはおおむね適切である。画像診断は、病院機能に見合った体制・設備を整備し、終日にわたり円滑な対応に取り組んでいる。栄養管理・リハビリテーション・医療機器管理は、手順や設備を整備し、専門性を活かせる運用が図られている。診療情報管理機能については、量的点

検業務の標準化に向け、継続した取り組みを期待したい。洗浄・滅菌機能は中央化し、滅菌保証と動線確保、日々の業務管理を通じ、清潔・安全な医療材料の提供に努めている。

輸血・血液管理については、機能に見合う専門医師、スタッフを配置し、設備や運用を整備し安全・迅速化が図られている。手術・麻酔においては、病院機能や役割に十分応じられる体制や設備を整備し、効率的かつ機能的なスケジュール管理のもと、定例手術に加え緊急手術や周産期部門からの緊急依頼にも柔軟に対応できる運用がなされており高く評価したい。また、集中治療病床と隣接する救急部病床が一体化して機能を発揮し、救急入院や手術後重症例に多職種も積極的に関与して業務が展開されている。救急医療は、地域で貴院の担うべき重要な役割の一つと位置付け、相応しい実績を積み重ねている。県広域災害・救急医療情報システムにも参加して連携を強化し、現有する医療資源を最大限活用して、施設の基本方針に徹した活動は高く評価したい。

10. 組織・施設の管理

財務・経営管理は、独立行政法人の関係法令に従って適切に行い、収支改善に向け課題を明確にしている。予算執行に対する成果を、病院長主導で組織的に確認しながら進捗を管理している。医事業務の基準・手順を整備し、DPC 保険対策委員会を通じて保険診療の遵守に努め、委託業者と一体となった確実な収納業務が実践されている。業務委託は合理性や効率性を客観的に評価し、教育・研修も含め質向上に努めている。施設・設備の保守管理と緊急時の対応、廃棄物の分別・処理・運搬・マニフェストの確認など適切である。経年劣化等の対応については、設備・機器の耐用年数に応じた中長期計画に基づきメンテナンスを行い、特に配管等の埋設物については、専門的対応がなされている。物品管理については、供給と管理の効率化を図るとともに、他施設との標準化に向けても取り組んでいる。

災害時の対応については、震災後、機構4病院でスケールメリットを活かした災害対応体制を構築し、2015年に市災害対応病院に指定されている。なお、職員用の食料備蓄については、今後の展開を期待したい。保安全管理に向け、24時間体制で警察OBおよび委託警備員を配置し院内の平穏な秩序維持に努めている。医療事故発生時の対応は、24時間体制で整備され必要な会議も速やかに開催する体制が構築されている。

11. 臨床研修、学生実習

職種ごとの初期研修に関しては、基幹型・協力型臨床研修病院であり、研修は臨床研修プログラムに沿って実施し、リスクを伴う具体的な行為も明確である。NPO法人卒後臨床研修評価機構の認定施設として継続して登録されている。看護職は、集合研修と配属先でのOJTを組み合わせ、ローテーションを交えて様々な病態の看護を身につけることが出来るように計画されている。その他の職種は、業務ごとに習熟目標と指導者を定め年間計画として作成し実施している。薬剤部では、レジデント制度による教育体制も整備している。学生実習は、診療参加型臨床実習を行う

教育病院として、看護師、薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、療法士など多職種について実施し、地元消防署の救命救急士実習も行っている。個人情報保護や実習中の事故対応、誓約書、ワクチン接種など病院主体の受け入れ方針を定めている。安全・感染・個人情報保護・接遇についても、病院として必要な教育を実習開始前に実施している。

1 患者中心の医療の推進

評価判定結果

1.1	患者の意思を尊重した医療	
1.1.1	患者の権利を明確にし、権利の擁護に努めている	A
1.1.2	患者が理解できるような説明を行い、同意を得ている	B
1.1.3	患者と診療情報を共有し、医療への患者参加を促進している	A
1.1.4	患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している	A
1.1.5	患者の個人情報・プライバシーを適切に保護している	B
1.1.6	臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる	A
1.2	地域への情報発信と連携	
1.2.1	必要な情報を地域等へわかりやすく発信している	A
1.2.2	地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している	A
1.2.3	地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている	A
1.3	患者の安全確保に向けた取り組み	
1.3.1	安全確保に向けた体制が確立している	A
1.3.2	安全確保に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.4	医療関連感染制御に向けた取り組み	
1.4.1	医療関連感染制御に向けた体制が確立している	A
1.4.2	医療関連感染制御に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.5	継続的質改善のための取り組み	
1.5.1	患者・家族の意見を聞き、質改善に活用している	A
1.5.2	診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる	A

1.5.3	業務の質改善に継続的に取り組んでいる	A
1.5.4	倫理・安全面などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を導入している	A
1.6	療養環境の整備と利便性	
1.6.1	患者・面会者の利便性・快適性に配慮している	A
1.6.2	高齢者・障害者に配慮した施設・設備となっている	A
1.6.3	療養環境を整備している	A
1.6.4	受動喫煙を防止している	A

2 良質な医療の実践 1

評価判定結果

2.1	診療・ケアにおける質と安全の確保	
2.1.1	診療・ケアの管理・責任体制が明確である	A
2.1.2	診療記録を適切に記載している	A
2.1.3	患者・部位・検体などの誤認防止対策を実践している	B
2.1.4	情報伝達エラー防止対策を実践している	A
2.1.5	薬剤の安全な使用に向けた対策を実践している	A
2.1.6	転倒・転落防止対策を実践している	A
2.1.7	医療機器を安全に使用している	A
2.1.8	患者等の急変時に適切に対応している	A
2.1.9	医療関連感染を制御するための活動を実践している	A
2.1.10	抗菌薬を適正に使用している	A
2.1.11	患者・家族の倫理的課題等を把握し、誠実に対応している	A
2.1.12	多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている	A
2.2	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.2.1	来院した患者が円滑に診察を受けることができる	A
2.2.2	外来診療を適切に行っている	A
2.2.3	診断的検査を確実・安全に実施している	A
2.2.4	入院の決定を適切に行っている	A
2.2.5	診断・評価を適切に行い、診療計画を作成している	A
2.2.6	患者・家族からの医療相談に適切に対応している	A
2.2.7	患者が円滑に入院できる	A

2.2.8	医師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.9	看護師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.10	投薬・注射を確実・安全に実施している	A
2.2.11	輸血・血液製剤投与を確実・安全に実施している	A
2.2.12	周術期の対応を適切に行っている	A
2.2.13	重症患者の管理を適切に行っている	A
2.2.14	褥瘡の予防・治療を適切に行っている	A
2.2.15	栄養管理と食事指導を適切に行っている	A
2.2.16	症状などの緩和を適切に行っている	A
2.2.17	リハビリテーションを確実・安全に実施している	A
2.2.18	安全確保のための身体抑制を適切に行っている	B
2.2.19	患者・家族への退院支援を適切に行っている	A
2.2.20	必要な患者に継続した診療・ケアを実施している	A
2.2.21	ターミナルステージへの対応を適切に行っている	A

3 良質な医療の実践 2

評価判定結果

3.1	良質な医療を構成する機能 1	
3.1.1	薬剤管理機能を適切に発揮している	A
3.1.2	臨床検査機能を適切に発揮している	A
3.1.3	画像診断機能を適切に発揮している	A
3.1.4	栄養管理機能を適切に発揮している	A
3.1.5	リハビリテーション機能を適切に発揮している	A
3.1.6	診療情報管理機能を適切に発揮している	A
3.1.7	医療機器管理機能を適切に発揮している	A
3.1.8	洗浄・滅菌機能を適切に発揮している	A
3.2	良質な医療を構成する機能 2	
3.2.1	病理診断機能を適切に発揮している	B
3.2.2	放射線治療機能を適切に発揮している	NA
3.2.3	輸血・血液管理機能を適切に発揮している	A
3.2.4	手術・麻酔機能を適切に発揮している	S
3.2.5	集中治療機能を適切に発揮している	A
3.2.6	救急医療機能を適切に発揮している	S

4 理念達成に向けた組織運営

評価判定結果

4.1	病院組織の運営と管理者・幹部のリーダーシップ	
4.1.1	理念・基本方針を明確にしている	A
4.1.2	病院管理者・幹部は病院運営にリーダーシップを発揮している	A
4.1.3	効果的・計画的な組織運営を行っている	A
4.1.4	情報管理に関する方針を明確にし、有効に活用している	A
4.1.5	文書管理に関する方針を明確にし、組織として管理する仕組みがある	A
4.2	人事・労務管理	
4.2.1	役割・機能に見合った人材を確保している	A
4.2.2	人事・労務管理を適切に行っている	B
4.2.3	職員の安全衛生管理を適切に行っている	B
4.2.4	職員にとって魅力ある職場となるよう努めている	A
4.3	教育・研修	
4.3.1	職員への教育・研修を適切に行っている	B
4.3.2	職員の能力評価・能力開発を適切に行っている	A
4.3.3	専門職種に応じた初期研修を行っている	A
4.3.4	学生実習等を適切に行っている	A
4.4	経営管理	
4.4.1	財務・経営管理を適切に行っている	A
4.4.2	医事業務を適切に行っている	A
4.4.3	効果的な業務委託を行っている	A

4.5	施設・設備管理	
4.5.1	施設・設備を適切に管理している	A
4.5.2	物品管理を適切に行っている	A
4.6	病院の危機管理	
4.6.1	災害時の対応を適切に行っている	B
4.6.2	保安業務を適切に行っている	A
4.6.3	医療事故等に適切に対応している	A

年間データ取得期間： 2017 年 4 月 1 日 ～ 2018 年 3 月 31 日
 時点データ取得日： 2018 年 9 月 1 日

I 病院の基本的概要

I-1 病院施設

I-1-1 病院名： 地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター西市民病院

I-1-2 機能種別： 一般病院2

I-1-3 開設者： 地方独立行政法人

I-1-4 所在地： 兵庫県神戸市長田区一番町2-4

I-1-5 病床数

	許可病床数	稼働病床数	増減数(3年前から)	病床利用率(%)	平均在院日数(日)
一般病床	358	358	+0	87.9	12.8
療養病床					
医療保険適用					
介護保険適用					
精神病床					
結核病床					
感染症病床					
総数	358	358	+0		

I-1-6 特殊病床・診療設備

	稼働病床数	3年前からの増減数
救急専用病床	15	+0
集中治療管理室 (ICU)	5	+0
冠状動脈疾患集中治療管理室 (CCU)		
ハイケアユニット (HCU)		
脳卒中ケアユニット (SCU)		
新生児集中治療管理室 (NICU)		
周産期集中治療管理室 (MFICU)		
放射線病室		
無菌病室		
人工透析	20	+0
小児入院医療管理料病床	16	+0
回復期リハビリテーション病床		
地域包括ケア病床	37	+37
特殊疾患入院医療管理料病床		
特殊疾患病床		
緩和ケア病床		
精神科隔離室		
精神科救急入院病床		
精神科急性期治療病床		
精神療養病床		
認知症治療病床		

I-1-7 病院の役割・機能等

地域医療支援病院, 肝疾患診療連携拠点病院, DPC対象病院 (Ⅲ群)

I-1-8 臨床研修

I-1-8-1 臨床研修病院の区分

医科 ☒ 1) 基幹型 ☒ 2) 協力型 ☐ 3) 協力施設 ☐ 4) 非該当
 歯科 ☒ 1) 単独型 ☐ 2) 管理型 ☐ 3) 協力型 ☐ 4) 連携型 ☐ 5) 研修協力施設
☐ 非該当

I-1-8-2 研修医の状況

研修医有無 ☒ 1) いる 医科 1年目： 9 人 2年目： 7 人 歯科： 1 人
☐ 2) いない

I-1-9 コンピュータシステムの利用状況

電子カルテ ☒ 1) あり ☐ 2) なし 院内LAN ☒ 1) あり ☐ 2) なし
 オーダリングシステム ☒ 1) あり ☐ 2) なし PACS ☒ 1) あり ☐ 2) なし

